

参加者、
在原、石川、北島、神前、古宇田、小海、田中、
鳥飼、中島、中野、並木、古川、町田、安田、
山岡、遊佐、横関、吉本、吉村、
ゲスト、島崎、

BMW RS Club

かわらばん

Apr 4, '99

満開の桜や桃の花を追った、
蜜蜂のような花追い人の一
かわらばん-中島 邦雄、 挿絵-小倉 瑞子

雪と氷に閉ざされていた山奥の渓流でも、雪解けと共に岩魚(イカ)や山女魚(ヤマメ)が、餌を追ってその動きを速め、周囲の土手では春蘭や雪割草がソット顔を覗かせ始めました。里では厳しい寒さに耐えていた木々の蕾が一斉に花を付け、辺り一面は花曼陀羅の世界に変わろうとしています。

都心でも桜前線の北上と共にうっすらと艶めいていた大地が、開花と共にある日一度にあでやかな日々に変身するそんな今日この頃。地が桜なら海ではさしづめ鱗(ウロコ)を光させて踊る、桜鯛と呼ばれる春先の鯛。あたかも小股の切れ上がったいなせな美女が、サット帯を解いたような眩しさなまめかしさ。

生命(いのち)の息吹をそして季節の移ろいを、一年の内で最も如実に感じられるのが、お彼岸前から今頃までのこの素晴らしい日々なのではないでしょうか。花屋の店先でも毎日花の種類が増え始めました。

さて今年も三月七日の開幕ツーリングは、なんとナント去年と同じに又もや雨で中止でした。当日はやっと咲き始めた天を向いて開くハクモクレンが、可憐なまでに清らかに、そしてカンヒ桜が赤い釣り鐘を垂らしたように咲き乱れ、薄緑色に染まつたりヨウガクバイが、ゆく春の名残を惜しんでいるかのようなそんな心弾む春の一日でした。しかしながら外は無情の雨で、バイクを磨きながら涙しました。

したがって今回のツーリングは殆どのメンバーにとって、今シーズンの走り始めとなうことでしょう。暖冬の影響で今年の桜は開花が早いと伝えられていましたが、厳しい寒の戻りに足踏みをしていた桜も、当日は満を持していたかのように一斉に花開き、都内中がピンクのカーテンに包まれたような、そんな見事な満開の一日本となりました。集まったメンバーの顔も、心なしか浮かれているかに見えましたが、どうにもハッキリしない空模様だけが気になりました。「春に十日の晴れ間なし」と言いますから仕方がないとは言え、なんとも気になることです。

今年から入会の方々やゲストも加え、車で参加の石川さんとも18台の陣容で9時半に「石川PA」出発し、すぐ先の料金場で、最長老で最も元気な町田さんも加わり、合計19台で豪快に「糸駄堂PA」へ向かって飛び出しました。そんな中で新車で登場した、田中さんと山岡さんのピカピカなバイクが、桜に負けじとばかりに一際輝いています。

道路の両側はどこ迄も桜のお出迎え。相模湖を過ぎると緑の山並みに湖面が映え、満開の桜が見事なコントラストを醸(かも)し出しています。「談合坂SA」の近くには、白や紫色のモクレンやカイドウが桜と一緒に咲き乱れていました。大月から勝沼を過ぎ見事な桜並木に出迎えられて「糸駄堂PA」に入ると、右手の薄日の差し出した中に、いつもの雪を被った「鳳凰三山」が見事な姿を現しました。何かホットする風景です。ここで鳥飼さんが加わり、これで今回は計20台となりました。

一休みしてから出発。今日のお目当ての一つ、一宮御坂の「日本一の桃の里」に差しかかると、高速道路の左右に7~8分咲きの桃の畠が拡がり始めました。そんな中にスモモが白い花を付け桜も負けじとばかりに咲き、まさに桃源郷そのものの趣。声がかからないので未だ訪れた事は有りませんが、キットあの世というの、まさにこんな処ではないかと思いました。「甲府南」で高速を降り右手の市川大門方面に走って、笛吹川を右手に見ながら走ります。日差しが段々と強まり汗ばむような見事な天気です。混みあう町中を抜けて国道52号へ入り、笛吹川と富士川の二つの橋を越え、桜祭とかで賑わう鰍沢(かじかざわ)の町を擦り抜けました。鰍沢といえば「円朝」の、あの有名な人情嘶で知られた処です。恐い話ですが良く出来た嘶です。富士川に沿って走ると、山中に桃かアンズの花が緑の木々の間に咲き、あたかもポンボリに灯がともったかのような感じでした。ゆったりと流れる富士川の流れも、何か心が和む思いがしました。

身延の手前で富士川を左に越え、本栖湖に向かって坂を上り始めました。ここでも道の両側は桜また桜の見事さで、こんなに一度に咲いてしまうのが惜しいような感じがしました。天気は益々良くなっていました。途中のイベント会場のような処で休憩して、さらに坂を上り詰めると、見事な富士山が目の前にその容姿を現しました。絵葉書に有る通り刷毛ではいたように雪が残る、そんな素晴らしい富士山でしたが、先を急いで休憩は有りません。

しばらくして「本栖みち」を進むと、道の両側は自殺の名所で名高い「青木ヶ原樹海」。今でも毎年の搜査で幾つもの死体が見つかるという樹海は、昼なお暗くて何か不気味な感じです。松本清張も変な小説(波の塔)を残したものです。無線を持たないといつもの方々が、朝霧高原で又もやズッコケて迷子になりましたが、「とても付き合っちゃいられね~」と一足先に、裏道を抜け河口湖の近くをかすめ、富士吉田方面に走り今日の昼飯処の、山中湖畔に近い「大豊」に一時に着きました。ここは以前に遊佐ちゃんのフェラーリが飾ってある美術館へ来た時に、矢張り昼飯を食った処でした。あの時は八重桜が満開でしたね。子持ちのワカサギの唐揚げと、タラの芽のテンプラで飲んだビールが、まさに五臓六腑にしみわたるかのような旨さでした。酒を飲みながら 年配の元メンバーが若い女と蒸発したという、少しばかり羨ましいような話が出ました。

ここから二人が帰り残りの者はアユ釣で名高い「道志川」沿いの道を、何時もと逆に相模湖へ川を右手に見ながら、気分良く走りました。相変わらず桜が行く手を飾り、鄙(ひなびた)田舎やを見ながら相模湖に到着。大変な人出です。ここまで山中湖より40キロの道のりでした。大垂水峠を抜けて高尾山登山口に着きました。結構長い道のりでした。ここまで来て遊佐ちゃんのバイクがバッテリー・トラブルを起こしました。



しかし北島さんと安田さんの二人のプロが一緒ですので、道具が並べられ、たちどころに修理が済みました。

近い内にガッポリと請求書が届く筈です。

「それにしても便利なクラブだ」と町田さんが感心することしきりでした。

暗くなる前にと八王子ICより帰途に就きました。帰り車で首都高速道は大渋滞で、単独事故で側壁に車をぶつけ、呆然としている親子老人ずれが高速上に居ました。300キロ少々のツーリングでしたが、一般道が多かった分だけ、かなり走りがいが有りました。

幹事の安田さん、下調べなどゴクロウさんでした。ゲストや新しいメンバーの方々如何でしたでしょうか。

五年目に入った「かわらばん」の稚拙な文章を、少しでもフォローして欲しいと思い、今年よりプロの女性に挿絵を書いて頂く事になりました。芸大の学生さんの頃からの知り合いで、多方面にわたって活躍されている、小倉瑞子さんという方です。忘年会の時にはお連れします。私と同様にヨロシクお願い致します、そして季節毎の素敵な絵をお楽しみください。